

看護症例研究 (NURSING CARE STUDY)

I. 表題

患者 (名前を明記しない)
 年齢
 入院年月日
 退院年月日
 最終診断

学生名
 学年
 病院棟
 研究開始年月日
 研究終了年月日

II. 紹介

読者の為に必要なインフォメーションを含む。
 患者の大体の紹介及び症例研究に選んだ理由。

III. 社会的背景及び現況

1. 年齢
2. 独身、既婚、離婚、別居
3. 国籍
4. 宗教 - 特に問題があるか?
5. 家族数及び患者の家庭における位置。
6. 患者及び家族の学歴。
7. 職業 - 身体に影響があるか? 将来患者が同じ職業につく上には健康上の支障があるか? 家庭の主婦の場合には家事をこつと健康の支障があるか?
8. 家族に対する責任及び疾病によつておこつた問題。
9. 家庭の環境、生活水準、健康及び気分のもち方。

IV. 病歴及び過去に於ける健康状態

1. 既往症、過去の健康状態、入院回数。
2. 現在の疾病、入院前の脊病状態、期間、合併症、治療を含む。
3. 症状 - 特に学生によつて観察されたもの、症例研究中にみられた変化について述べる。
4. 身体検査及び試験室検査の結果を要約に述べ、正常と比較し特に変化がある時は説明する。
5. 検査結果により変へられた診断に注意し予後を説明する。

V. 治療及び看護

1. 投薬、治療処置、食餌及びその効果について述べる。
2. 患者の病院の環境に調節する上におこつてくる問題、又それに対する解決案。
3. 医師によつて施行された治療で看護婦が介補したもの、治療の理由及び患者の示す反応。
4. 症状を緩和するためになされた看護とその効果。
5. 看護操作を行う際におこつた問題。
6. 毎日の観察を述べ急変がある場合はその理由を特記する。
7. 患者の性格が看護状況を助けた場合又障碍となつた場合について述べる。

VI. 健康指導

1. 健康及び個人衛生についての指導
2. 病院の日課中で疾病の為特に指導しなければならぬものを詳細に述べる。

3. 退院の準備について述べ、食餌、休養、運動についての特別指示を含める。
4. 退院後どのような治療と観察をいつけることが必要か。
5. 患者は身体的に又知的にこれらの指示を守つてゆく事が出来るか？
6. 患者の家庭、職業、生活様式を換へる方がよい場合その理由を述べる。
7. 健康指導に対する患者の関心及び反応について述べる。
8. 健康指導の効果又家庭にかへつてからも指示をいつけて守るであらう事案について述べる。

VII. 結論

最後に主だった観察をまとめる。此の症例研究により自分が学んだ特別な事項特に看護の事について述べる。資料を集める際に難しかった事、又検討する上に難しかった事について述べる。

VIII. インフォメーションを得たところ

1. 患者
2. 家族及び友人
3. 病院内外の医療関係者
4. 患者記録
5. 社会事業部

IX. 参考資料